

わが国にキリスト教の幼稚園ができてからすでに七十余年になり、幼稚園全体の約三分の一がキリスト教幼稚園であることからしても、日本の保育界においてキリスト教幼稚園の占めている位置は大きいと思われまゝ。それにもかかわらず、今までキリスト教幼稚園に関して書かれた、まとまった書物はほとんど見あたりません。こうした中で、この書は私たちの長年の渴望を満してくれるよい書物です。この書はその名が示すように、キリスト教幼稚園において幼児教育にあたる人々のために書かれたものです。全体は、第一部、幼児と幼稚園、第二部、幼稚園の保育課程、第三部、保育課程と施設、の三部に分かれ、十四の章からなっています。第一部では、まずキリスト教幼稚園の意義を明らかにし、幼稚園および父兄が、園と協力して子どものためになすべきことについて述べています。また教師が幼児を理解し、個人差を考慮しつつ保育するにはどのようにしたらよいか、などについて、さらに、保育室の環境や設備、室内の親和的なふんい気、よい教師の特質および心得というように、細部にまで

わたって懇切に説いています。

第二部は、いわゆるキリスト教保育のカリキュラムおよび保育内容について述べています。まず、単元を中心にした年間カリキュラムによって、その構成および展開の仕方を具体的に述べ、さらに社会見学(園

## 書評

著者 モレラ・メンシング  
訳者 平好津 船

## キリスト教幼稚園

西本 脩

第三部では、まず一日をどのように過さるべきであるかについて、事例を挙げながら具体的に述べ、次に幼稚園に必要な設備・備品について、実物の寸法入りの図とともに述べられています。

この書は翻訳なので、アメリカと生活様式などのちがう日本の幼稚園に、そのまま当てはめられない点があろうと考えられますが、この点については、訳者は非常な苦心をして、内容をくずさぬ程度に日本的なものに改めておられます。訳文も非常に平明で読み易く、翻訳という感じがしないほどです。保育の理論と実際がたくみに調和されており、多くの鮮明なざし絵や写真が一層この書を引き立てて、役立つ良書となっています。欲をいえば、索引があるとなお便利であろうと思われまゝ。キリスト教幼稚園・保育所ばかりでなく、その他の幼稚園・保育所の保育者にもひろく参考になる良書であると思いますので、一読をおすすめいたします。

(コンコーディア社 四〇〇円)

芸飼育など) 芸術保育(絵画、音楽リズム、手芸など) 読み方への準備、教の経験のさせ方、お話の仕方、自由遊び・劇遊び・物語遊び・ゲームなどのさせ方を章別に、実際の述べられています。また休息と元氣回復という章で、休息のさせ方、設備などについてもふれています。